

「小さな闇について」

主なストーリーはナレーターが自分の家族の闇についてを考えました。彼女は母とブエノスアイレスにギターを買いに行きました。そこで大きい墓地に行きました。行った理由はエビタという墓を見に行きました。ブエノスアイレスに行った前にエビタというマドンナの映画を見ました。墓の前にいながら、ナレーターの母について考えました。三年前に母は癌で亡くなりました。エビタの墓にある墓地はナレーターの母の墓にある墓地がとても違います。ブエノスアイレスの墓地はにぎやかで家のようなおたまやがありますが、ナレーターの母の墓が小さくて静かです。墓はナレーターに自分の幼年時代を思い出しました。母はすごく悲しい幼年会を持っていた。ナレーターのお祖母さんはフランス人の画家の愛人でした。画家は若い女の子と結婚した時、お祖母さんが頭がおかしいになって自殺をしました。この小説はそのことなどがあります。お母さんの他の小さな闇はお父さんは家に来ていなかった時もう一度お祖母さんは母に箱に出されました。

小説の面白い点が小説の感じがとても暗いだと思います。作家がたくさん悲しいことがあります。例えば、お母さんの悲しい幼年時代だし、お父さんの飲むことの問題などです。小説を詠んだ後で、僕の家族を考えました。僕の幼年時代がちょっと同じです。父はヘビードリンカーでしたが、母は家族を助けてくれました。二年後で、父は酒をやめました。その小説を詠むことが好きでした。いいメッセージがあります。

主のメッセージは光のことは暗いことより強いだと思います。ナレーターの命で小さな闇があるのに彼女が自分の命があまり暗くないと思います。僕はナレーターがとても強いと思います。僕は箱の中にいる時があまりいません。箱に入る時が一回だけです。二年間前に大学をやめたいでした。僕の命の意味がないと思いました。とても暗い時代でした。でも、

カウンセリングした後、多くの先生と話して、元気になりました。デプレッションの答えは日本に留学することです。でも、母と父の命は僕より暗いです。僕のお祖父さんもヘビードリンカでした。また、彼が激しいでした。それだから、父の命が難しいでした。ドラッグをしました。母は12歳の時母のお父さんは母のお姉さんとお兄さんと出て若い女の人と結婚しました。それから、母は母のお母さんに看ました。僕のお祖母さんが痴呆症が持っています。みなさんに小さな闇があると思います。完璧の命がありません。みなさんは心配になることもありますが、小さな闇を向かい合わせられなかったら、食い尽くして、決して楽しいになりません。